

平成 30 年度 地域活性化総合特別区域評価書

作成主体の名称：山口県、光市、柳井市、熊毛郡田布施町

1 地域活性化総合特別区域の名称

次世代型農業生産構造確立特区

2 総合特区計画の状況

①総合特区計画の概要

本地域は、県内でも高齢化が進んだ地域であり、農地の耕作放棄地も増加している。さらに基盤整備が遅れており、現状では収益性が低い水稲単作の営農形態が主体となっている。

こうした中、国営事業により区画整理とフォアス（地下水位制御システム）を導入することで水田の排水対策を進め、大豆、麦、園芸作物等による土地利用率の向上、農業所得の増大を図る。

また、農業用施設等への再生可能エネルギーの導入を進める。

②総合特区計画の目指す目標

本地域の農業は、担い手の高齢化、零細な経営規模、土地基盤整備の遅れなど、多くの課題に直面している。

このため、南周防地区を対象に実施される国営事業と一体となって、温暖多日照の恵まれた地域特性を踏まえた自然エネルギーの活用、集落営農法人や女性グループといった担い手を中心に地域資源を活用した6次産業化などを積極的に推進し、全国のモデルとなる次世代型の農業生産構造を確立する。

③総合特区の指定時期及び総合特区計画の認定時期

平成 23 年 12 月 22 日指定

平成 24 年 11 月 30 日認定

④前年度の評価結果

グリーンイノベーション分野 4. 3点

- ・十分に優れた取組となっている。国の財政支援により、農業基盤が着実に整備されるなど、各事業とも当初の目標が確実に達成されている。
- ・着実に農地集積や地域資源を活用した6次産業化により、農業経営基盤の強化をはかり、次世代型農業の推進に向けた実績を積み重ねていることが評価される。
- ・農地集約や6次産業化にあわせて、適切な営農体制の確立へ向けた取組が期待される。指標に掲げた農地集約や6次産業化などの農業経営基盤の強化が、最終的な農業所得拡大に確実に結びついていけるか、しっかりと見通しを得て進めてほしい。
- ・再生可能エネルギーに関しては単なる箇所数だけでなく、その取組内容の先進性を評価することや、取組による電力自給率、電力コストの削減等農業経営へのインパ

クトの定量化などを試みて頂きたい。

- ・6次産業や地域エネルギー会社の設立など新たな財政支援を活用する取り組みの発展も期待したい。

農林水産業分野 3. 6点

- ・すべての評価指標において実績値が目標値を上回っており、望ましい状態に到達していると言える。反面、数年前にすでに最終年度の目標をクリアしており、低めの数値目標だったのではないか。
- ・中心経営体への農地集積は、一般的に農地集積率が下がるということは考えられない中で、どのような事情があったか明記すべきである。
- ・経営の多角化等による新たな雇用の確保について、平成29年度の雇用者の伸びがとりわけ大きい（12名）ことは評価できる。
- ・取組を通じてどのように地域活性化がなされたのかが、報告書から読み取れない。農地集約やフォアスの導入で米作の生産性が高まったことは推測されるが、他の園芸作物等についても定性的評価でもよいので記述してほしい。
- ・全体として「次世代型農業生産構造」の意味する内容が不明瞭である。最終的にどのような農業生産構造を実現しようとしているのか。中心経営体への農地集積率が70%を達成した時の農業経営体は集落営農なのか、それらを束ねた農業法人連合とはどのような経営体となるのか示してもらいたい。

⑤本年度の評価に際して考慮すべき事項

該当なし

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙1）

① 価指標

評価指標（1）：中心経営体への農地集積 [進捗度 121%]

数値目標（1）：中心経営体への農地集積率の増加 20%（H22年度）→48%（H30年度）
[H30年度目標値 48%、H30年度実績 58%、進捗度 121%]

評価指標（2）：再生可能エネルギーの利用推進 [進捗度 100%]

数値目標（2）：再生可能エネルギーを利用する農業用施設箇所数
1箇所（H22年度）→5箇所（H30年度）
[H30年度目標値 5箇所、H30年度実績 5箇所、進捗度 100%]

評価指標（3）：経営の多角化等による新たな雇用の確保 [進捗度 138%]

数値目標（3）：25名（H15年度～H22年度）→63名（H23年度～H30年度）
[H30年度目標値 63名、H30年度実績 87名、進捗度 138%]

②寄与度の考え方

該当なし

③総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

- ・国営事業により、ほ場の大区画化、フォアスによる排水対策を進めるとともに、営農の受け皿となる新たな担い手の設立支援、担い手への農地集積を進め、稲作に大豆や麦等を組み合わせた2年3作による土地利用率の向上を図り、農業所得額の増加に繋げる。
- ・フォアスの整備により、単収の増による収穫量の増加が見込まれるとともに、ほ場の水管理にかかる時間を短縮することが可能となる。
- ・地域農業の中心経営体として平成27年度に1法人、平成29年度に1法人が特定農業法人に認定された。既存法人への農地集積も進め、約7割の農地を集積し、農業経営基盤を強化する。
- ・平成23年7月にオープンした農業振興拠点施設「里の厨」を核に、新たな地産地消の施策展開による6次産業化の推進を図り、新たな雇用の創出につなげる。

④目標達成に向けた実施スケジュール（別紙1-2）

国営事業は、工事着手後山口県下で発生した豪雨災害への応急対応による重機や作業員の不足のため工事遅延が発生した。それ以降は、事業予算の確保や、工事計画の見直し、入札参加資格の緩和など、円滑な工事実施に向けて取り組んでいる。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙2）

①特定（地域活性化）事業

該当なし

②一般（地域活性化）事業

②-1 財産処分手続きの簡素化

ア 事業の概要

国庫補助事業で整備した施設に太陽光パネル等を設置する場合、施設の生産能力や利用規模に影響しない場合は財産処分手続きは不要であると確認できたため、発電施設整備の進捗が期待できる。

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与
対象年度の設置は無いため、目標達成への寄与は無い。

③規制の特例措置の提案

該当なし

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙3）

①財政支援：評価対象年度における事業件数3件

＜調整費を活用した事業＞

なし

<既存の補助制度等による対応が可能となった事業>

①-1 国営緊急農地再編整備事業（平成30年度要望結果：対応可能）

ア 事業の概要

国による農地の区画整理及び暗渠排水の整備

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

区画整理を実施することにより、農地集積の進捗を図ることができた

ウ 将来の自立に向けた考え方

国営事業完了後は、整備後の農地・施設を有効活用し、農業生産を進めていく

①-2 鳥獣害防止対策交付金（平成30年度要望結果：対応可能）

ア 事業の概要

市町による獣害防止策の整備に対する助成措置

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

約4kmの獣害防止策を整備し、農業生産の維持に貢献

ウ 将来の自立に向けた考え方

補助事業完了後は、整備された防護柵により被害を低減し、農業生産の向上を図る

①-3 中山間地域総合整備事業（平成30年度要望結果：対応可能）

ア 事業の概要

県による道路整備、排水路整備、安全施設整備の実施に対する補助

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

道路整備等の実施により、着実な事業の進捗に貢献

ウ 将来の自立に向けた考え方

補助事業完了後は、事業によって整備された施設を引き続き有効活用していく

② 税制支援：地域活性化総合特区を対象とする税制支援メニューが無いため、
該当なし

③金融支援（利子補給金）：評価対象年度における新規契約件数0件

ア 事業の概要

地下水位制御システム整備に必要な資金の貸付

イ 評価対象年度における金融支援の活用状況と目標達成への寄与

活用なし

ウ 将来の自立に向けた考え方

国営事業完了後は、整備後の農地・施設を有効活用し、農業生産を進めていく

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙4）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

- ・集落営農の法人化に向けた取組や企業の農業参入に向けた支援、機械導入に対する補助等を継続して実施し、区画整理工事が完了した農地から農業法人等への農地

集積を進めることとしている。

- ・また、新たな雇用創出に繋がる6次産業化に向けた取組や女性企業育成に向けた各種講座や研修会を開催するとともに、新規就農希望者への支援を通じた法人への就業等着実に成果を上げている。

7 総合評価

- ・国営事業による区画整理工事の本格化とともに、工事後の営農に向けた新たな中心経営体が組織化され、農地集積も進むなど、生産構造の確立は順調に進んでいる。
- ・農業用ダムに太陽光発電を導入し、農業用ポンプ利用に活用する取組や、農業用水路に小水力発電を導入し、獣害防止電気柵利用に活用する取組を実証した。本地域は、再生可能エネルギーの施設整備に対する理解が進んでおり、導入に向けた機運は醸成している。
- ・新規就業者については、募集から技術研修、就業、定着までの一貫した就業支援対策を実施することで集落営農法人等への就業者が増加しており、新たな雇用の確保が進んでいる。
- ・本特区については事業が順調に進捗し、新たな規制等の特例措置の提案の予定が無いため平成30年度を持って総合特別区域指定の解除の申請を行った。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成22年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
数値目標(1) 20%→48%	目標値				35%	38%	41%	45%	48%
	実績値	20%	20%	20%	46%	58%	60%	56%	58%
寄与度(※):-(%)	進捗度(%)		—	—	131%	153%	146%	124%	121%
代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合									
評価指標(1) 中心経営体への農地集積	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>本地区の課題である担い手の高齢化、零細な経営規模、土地基盤整備の遅れなどの課題を解決するため、国営緊急農地再編整備事業による区画整理、暗渠排水(フォアス)、ため池整備を平成32年度までに実施することとしている。これらの整備を通じて、地域の中心経営体への農地集積を図るとともに、2年3作のローテーションによる大豆や麦等の大幅な増産を図ることとしている。また、単県事業により大型機械導入を支援し、機械利用効率の向上も図ることとしており、これらの取組を通じて、中心経営体への農地集積率の増加に繋げることとしている。</p>							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	<p>国営緊急農地再編整備事業に伴う農業経営高度化計画を参考に、国営事業工期延伸を考慮して、平成30年度の集積率を目標値とする。 平成25年度から工事が本格化し、工事完了後の営農に向けた受け皿として、新たに農事組合法人の設立、特定農業法人が認定されるとともに、既存法人への新たな農地集積に向けた支援を行い、約70%の農地を担い手に集積できる見込みとなっている。</p>							
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	<p>JA南すおう管内は、これまで大豆の作付が少なく、乾燥調製ができる施設がなかったことから、他JAの施設を借りていたが、国営事業を契機に新たな担い手や既存法人による大豆・麦の作付拡大が計画されていること、借りていた施設も管内の大豆の増産により受入が困難となったこともあり、JAとしても新たな大豆・麦産地を育成するため、大豆・麦乾燥調製施設を新たに整備(平成23年度)し、事業後の担い手の経営強化に対する支援を行っている。 また法人にとって、大豆作付に伴う新たな機械等の購入は大きな負担となることから、JA南すおうがリースを斡旋するなど、初期投資を抑制する取組も行っている。 平成25年度は、全国的な公共事業の増加や7月に発生した災害対応等により、工事着手後重機や作業員の不足による工事遅延が生じるなど、計画的な工事進捗が困難であった。平成27年度に、工事計画の見直しや工事発注時期の変更、見積活用方式の試行等に取組むことにより、改善が図られた。今後も財政支援含め工事が円滑に進捗し、早期完成に向かって邁進できるよう関係機関の協力体制を強化する必要がある。</p>							
	外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成22年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
数値目標(2) 1箇所→5箇所	目標値				2箇所	3箇所	3箇所	4箇所	5箇所
	実績値	1箇所	1箇所	2箇所	4箇所	4箇所	5箇所	5箇所	5箇所
寄与度(※):-(%)	進捗度(%)		—	—	200%	133%	167%	125%	100%
評価指標(2) 再生可能エネルギーを活用する農業用施設箇所数	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合	/							
数値目標(2) 1箇所→5箇所	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	燃料価格の高騰や高齢化の進展により、農業を取り巻く状況の厳しさは増していることから、再生可能エネルギー、特に草刈軽減や農業経営の改善につながる太陽光発電や小水力発電、燃料費の軽減につながる木質ペレット加温機の導入に向けた実証や説明会を実施する。							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	平成17年度:ペレットボイラー:柳井市(園芸温室加温) 平成25年度:小水力発電:田布施町小行司(照明) 平成26年度:太陽光発電(防草発電シート):柳井市石井ダム(農業用ポンプ) 平成26年度:小水力発電:田布施町木地(電気柵) 平成28年度:太陽光発電:柳井市日積(防蟻灯) 平成25年度に行った小水力や太陽光の実証事業成果をもとに、農業者の光熱動力費の削減や所得向上に繋がり、比較的簡単な手続きで導入が可能で10~50kW程度の太陽光発電導入を進めるとともに、小水力発電の導入を加速化させる。							
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	単独県費事業や多面的機能支払交付金等で小水力や太陽光発電施設を整備し、説明会や報道発表を活用して、広く周知した。こうした取組によって、再生可能エネルギー導入に対する機運が醸成している。今後は、農林漁業における再生可能エネルギー活用事例を広く周知し、普及に努める。							
	外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
評価指標(3) 経営の多角化等による新たな雇用の確保	数値目標(3) 25名(H15~H22年度)→ 63名(H23~30年度)	目標値	27名	28名	48名	51名	54名	57名	63名
		実績値	24名	44名	48名	53名	60名	69名	81名
	寄与度(※):-(%)	進捗度(%)	163%	171%	110%	118%	128%	142%	138%
	代替指標の考え方や定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合								
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		平成24年度に柳井市都市農村交流施設「ふれあいどころ437」がオープンしたことにより、多くの新規雇用が生まれた。また、平成23年7月にオープンした農業振興拠点施設「里の厨」を核に、新たな地産地消の施策展開による6次産業化の推進を図り、新たな雇用の創出につなげる。							
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		目標値は、農事組合法人の設立や規模拡大、女性企業グループの法人化、農業振興施設等の整備に伴う新たな雇用を見込んで計画している。都市農村交流施設の雇用増により、当初目標値を大きく上回ることが想定され、平成26年度に目標値を上方修正している。							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度から区画整理工事が本格化し、整備後の地域農業を支える経営体の育成にも取り組んでいる。 平成25年8月に柳井地域農山漁村女性起業ネットワークが設立され、やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド「やまみちゃん」を活用した取組みを強化することとし、イベントでの合同販売等による知名度の向上に努めている。 							
外部要因等特記事項									

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

目標達成に向けた実施スケジュール

特区名:次世代型農業生産構造確立特区

	年 月	H24					H25					H26					H27					H28					H29					H30																	
		4	5	6	7	8	9	#	#	#	#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	#	1	2	3	4	5	6	7	8
全体																																																	
◇ 地域協議会の開催																																																	
◇ その他																																																	
(1) 地下水制御システム等を活用した効率的な農業生産プロジェクト																																																	
① 地下水制御システムの整備																																																	
② 集落営農法人等への農地集積																																																	
③ 耕地利用率140%の実現																																																	
・大豆の生産																																																	
・麦の生産																																																	
・たまねぎの生産																																																	
・キャベツの生産																																																	
④ 鳥獣害防止柵の整備																																																	
(2) エネルギーの地産・地消プロジェクト																																																	
① 農業用施設への再生可能エネルギー活用																																																	
・農業用ハウスへの太陽光発電導入																																																	
・小水力発電の導入																																																	
・農業用施設への太陽光発電導入																																																	
② 農業ハウス用小型木質ペレット加温機の開発・導入効果検証																																																	
(3) 地域の資源を活用した6次産業化推進プロジェクト																																																	
① 新たな集落営農法人等の設立																																																	
② 女性起業の法人化																																																	
③ 営農等に必要な資本整備																																																	
④ 6次産業化(法人経営の多角化)に必要な施設整備(農)つかりにおける6次産業化																																																	
交流施設等の整備																																																	

■規制の特例措置等を活用した事業の実績及び評価
 規制の特例措置を活用した事業

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称(事業の詳細は本文4①を参照)	関連する数値目標	規制所管府省による評価
		規制所管府省名: <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業(本文4②に記載したものを除く。)

現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業(本文4②に記載したものを除く。)

全国展開された事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況											
事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
土地利用の高度化による農業生産事業	数値目標(1)	財政支援要望	1,590,035 (千円)	1,473,010 (千円)	870,134 (千円)	1,344,336 (千円)	1,437,408 (千円)	1,931,233 (千円)	2,225,300 (千円)	10,871,456 (千円)	補助事業制度等所管府省名：農林水産省 対応方針の整理番号：46 特区調整費の活用：無 平成30年度は予算約32億円の確保により、主には区画整理工事を実施した。引き続き円滑な工事実施に向けた取組を継続することとしている。
		国予算(a) (実績)	1,590,035 (千円)	1,473,010 (千円)	870,134 (千円)	1,344,336 (千円)	1,437,408 (千円)	1,931,233 (千円)	2,225,300 (千円)	8,646,156 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)	657,965 (千円)	626,990 (千円)	299,866 (千円)	543,664 (千円)	593,592 (千円)	829,767 (千円)	953,700 (千円)	3,551,844 (千円)	
		総事業費(a+b)	2,248,000 (千円)	2,100,000 (千円)	1,170,000 (千円)	1,888,000 (千円)	2,031,000 (千円)	2,761,000 (千円)	3,179,000 (千円)	12,198,000 (千円)	
事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
土地利用の高度化による農業生産事業	数値目標(1)	財政支援要望		9,082 (千円)	17,387 (千円)	5,420 (千円)	10,800 (千円)	8,677 (千円)	6,061 (千円)	57,427 (千円)	補助事業制度等所管府省名：農林水産省 対応方針の整理番号：47 特区調整費の活用：無 近年イノシシ被害が増加していることに加え、国営事業の区画整理工事も次々と完成していくことから、引き続き獣害防止対策に取り組むこととしている。
		国予算(a) (実績)		9,441 (千円)	15,380 (千円)	5,420 (千円)	10,800 (千円)	8,677 (千円)	6,061 (千円)	55,778 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)		439 (千円)	0 (千円)	0 (千円)	0 (千円)	0 (千円)	0 (千円)	439 (千円)	
		総事業費(a+b)	0 (千円)	9,880 (千円)	15,380 (千円)	5,420 (千円)	10,800 (千円)	8,677 (千円)	6,061 (千円)	56,218 (千円)	

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
6次産業化推進事業	数値目標(3)	財政支援要望		46,000	9,800					55,800	補助事業制度等所管府省名：農林水産省 対応方針の整理番号：284 特区調整費の活用：無 平成25年度は、農事組合法人の6次産業化に向けたイチゴハウス整備の予算を要望し、補正予算も含めて必要額は確保できた。 平成26年度は、平成25年度補正予算による加工販売施設の整備が完了した。平成27年度から加工品販売を実施している。
		国予算(a) (実績)		42,946	4,250					47,196	
		自治体予算(b) (実績)		54,150	4,930					59,080	
		総事業費(a+b)	0	97,096	9,180	0	0	0	0	106,276	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
土地利用の高度化による農業生産事業	数値目標(1)	財政支援要望			53,350	40,150	60,500	30,800	30,250	215,050	補助事業制度等所管府省名：農林水産省 対応方針の整理番号：48 特区調整費の活用：無 平成29年度から集落道路整備工事、排水路工事、安全施設工事に着手し、関係機関との協議及び予算確保を行い、円滑な事業推進を図ることとしている。
		国予算(a) (実績)			53,350	40,150	60,500	30,800	30,250	215,050	
		自治体予算(b) (実績)			43,650	32,850	49,500	25,200	24,750	175,950	
		総事業費(a+b)	0	0	97,000	73,000	110,000	56,000	55,000	336,000	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	

税制支援措置の状況

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
該当なし		件数									

金融支援措置の状況

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計	自己評価
土地利用の高度化による農業生産事業		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	H24.11の認定以降、活用されていない。引き続き関係農家に対して事業制度の紹介を行っていく。

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
集落営農法人連合体育成事業	数値目標(1)	農業法人連合体の機械導入に対する補助を実施 柳井市(1件) 6,462千円 田布施町(1件) 1,874千円	国営事業の進捗と共に法人設立が進み、平成28年度にはJA出資の法人連合体も設立されたことから、新たな機械や施設の導入に対する補助は営農経費節減に繋がる取組として評価できる。	山口県
中核経営体育成支援事業	数値目標(1)	柳井市 ・認定農業者のフォローアップ活動を実施 ・集落営農の法人化に向けた会議を実施 田布施町 ・集落営農の法人化に向けた会議を実施 ・農業参入予定者に対する営農相談を実施 ・法人経営相談(3地区)を毎月実施 ・首都圏等での就農相談イベントに参加	地域の核となる中核経営体の育成は国営事業と並んで重要であることから、法人の設立から経営力強化まで支援し、経営基盤を強化する取組は評価できる。	山口県
農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業	数値目標(3)	女性農林漁業者のロールモデルとなる経営参画者を「ステキ女子」として育成するため、経営力強化のためのキャリアアップ講座やネットワーク構築に向けたステキ女子フォーラム等を開催。併せて、ステキ女子の活躍を見える化することで農林漁業のイメージアップを図っていくためのシンボルマークを決定し、そのお披露目を兼ねた「ステキ女子マルシェ」を実施。	キャリアアップ講座やネットワーク活動を通じて、主体的に経営理念や行動指針等を作成するようになるとともに、女子のつながりを活用して情報交換や課題解決が進むようになるなど、経営者としての資質向上及び経営参画意欲を高める取組として評価できる。	山口県
新規農業就業者定着促進事業	数値目標(3)	現地における就農前研修の支援	新規就農に向けた支援を一貫して行うものであり、法人等への就業も合わせて順調に進んでいることから評価できる。	山口県

税制支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名

金融支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名

規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	関連する数値目標	直接効果(可能であれば数値を用いること)	自己評価	自治体名

規制強化				
取組	関連する数値目標	直接効果(可能であれば数値を用いること)	自己評価	自治体名

その他				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名

体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	
民間の取組等	

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------